

2021年9月28日

味の素(株)、グループ初となるSDGs債を発行

～調達資金の用途をESGと関連付け、「食と健康の課題解決」の取り組みを明確化～

味の素株式会社(社長:西井 孝明 本社:東京都中央区)は、ICMA(国際資本主義協会:International Capital Markets Association)のグリーンボンド原則およびソーシャルボンド原則に定められている4つの要素(「1. 調達資金の用途」、「2. プロジェクトの評価と選定のプロセス」、「3. 資金用途の管理」、「4. レポーティング」)に基づき、「サステナビリティファイナンス^{※1}・フレームワーク」を策定しました。本フレームワークに基づき、国内市場において公募形式により当社グループ初のSDGs債として「サステナビリティボンド(無担保普通社債)」を10月に発行する予定であり、本日9月28日(火)に本発行に向けた社債の訂正発行登録書を関東財務局に提出しました。

当社は2020-2025中期経営計画において、2030年の目指す姿として掲げた「食と健康の課題解決」の実現に向けてあらゆる経営資源を集中することを基本方針としました。この方針に則り、当社グループを取り巻く経営環境を認識した上で、その変化に対応し社会的課題の解決に取り組むことが企業価値の向上に資するものと捉えています。

本SDGs債は当社グループが「食と健康の課題解決」における「10億人の健康寿命の延伸」と「環境負荷の50%削減」という二つのアウトカムの実現に向けたプロジェクトを資金用途に設定するもので、本SDGs債にあたり策定したフレームワークは、サステナビリティファイナンスに取り組む意義に合致するとともに、ポジティブ・インパクトを社会にもたらすものと考えております。今回の下記「サステナビリティボンド」発行により、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをより一層加速させていきます。

サステナビリティボンドの概要

発行体	味の素株式会社
発行年限	7年(予定)
発行額	100億円(予定)
発行時期	本年10月頃(予定)
主幹事証券会社	みずほ証券株式会社、野村証券株式会社、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
ストラクチャリング・エージェント ^{※2}	みずほ証券株式会社

対象・適格プロジェクト一覧

適格プロジェクト	プロジェクト概要
ニュアルトラ社(アイルランド)の株式取得	<ul style="list-style-type: none"> 高エネルギー・高たんぱく医療食品の一種であるオーラルニュートリションサプリメント(ONS)製品を開発し、英国とアイルランドで販売しているニュアルトラ社(アイルランド)の株式取得資金 食品・アミノサイエンス事業で培った「おいしさ設計技術」やアプリケーション技術、アミノ酸の生理機能に関する知見を、ニュアルトラ社のONS製品に適用することで、ONS製品の課題(味、バラエティ等)を解決し、ユーザーのQOL向上に貢献 当社のネットワークを活用し、ONS製品を世界的に普及

<p>味の素社カンペン ペット工場における バイオマスコジェネ レーション設備導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気および蒸気のエネルギーを削減する目的で、バイオマス燃料である 粃殻を用いたコジェネレーション設備を導入 ● 特に経済成長が著しく、今後も事業成長が見込まれる東南アジアでの CO₂排出量の増加抑制は、当社グループにとって重要な課題との認識。 タイ国内の精米所で発生する大量のもみ殻を有効活用し、環境負荷を低減 させる
<p>つばめBHB社への出資 (アンモニアオンサイト 生産技術研究開発)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社およびユニバーサル マテリアルズ インキュベーター株式会社、東京 工業大学の細野秀雄教授らと共に、世界で初めてとなるオンサイトで アンモニアを自製化する技術の実用化を目指す新会社である、つばめBHB 社を設立 ● 2017年の設立時に約2億円、2019年の増資時に約5億円の合計7億円を 出資 ● アンモニアのオンサイト生産による、輸送に係るCO₂削減を進める

なお、第三者機関^{※3}である格付投資情報センターから「セカンドオピニオン」が公表されていますので
ご参照ください。

<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/sustainabilityfinance/index.html>

<参考資料>

味の素株式会社 サステナビリティファイナンスフレームワーク

http://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/top/pdf/2021_09_28jp.pdf

- ※1)サステナビリティファイナンスとは、調達資金の使途が、①社会的課題の解決に資するものであること(ソーシャル性)及び、
②環境改善効果があること(グリーン性)の双方を有する資金調達です。
- ※2)ストラクチャリング・エージェントとは、サステナビリティファイナンスのフレームワークの策定及びセカンドオピニオン
取得の助言などを通じて、サステナビリティファイナンスの実行支援を行う者のことです。
- ※3)第三者機関とは、ICMA(国際資本主義協会：International Capital Markets Association)のグリーンボンド原則および
ソーシャルボンド原則に定められている4つの要素(「1. 調達資金の使途」、「2. プロジェクトの評価と選定のプロセス」、
「3. 資金使途の管理」、「4. レポーティング」)に準拠していることを確認する者のことです。

当社は「食と健康」のプロフェッショナルとして、常に一歩先を行く価値を作り続けることを目指し、事業
活動を通じ、当社ならではの価値を創造し、社会課題の解決に取り組みます。

参 考

2020年12月15日付プレスリリース

味の素グループ、マレーシアでグループ初となるESGファイナンスの契約締結

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2020_12_15.html

2020年12月21日付プレスリリース

味の素(株)、アイルランドのサプリメント会社を子会社化

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2020_12_21_01.html

2017年4月27日付プレスリリース

味の素(株)、UMI、東工大教授ら世界初となるオンサイトアンモニア生産の実用化を目指す新会社を設立

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2017_04_27_02.html

味の素グループは、「アミノ酸のはたらき」で食習慣や高齢化に伴う課題を解決し、人々のウェルネスを共創する、食と健康の
課題解決企業を目指しています。

私たちは、「Eat Well, Live Well.」をコーポレートメッセージに、アミノ酸が持つ可能性を科学的に追求し、事業を通じて地域
や社会とともに新しい価値を創出することで、さらなる成長を実現してまいります。

味の素グループの2019年度の売上高は1兆1,000億円。世界35の国・地域を拠点に置き、商品を販売している国・地域は130
以上にのぼります(2020年現在)。詳しくは、www.ajinomoto.co.jpをご覧ください。

本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先：Pr_media